



## 1) 「収益性の高い農業推進支援拠点」再整備の基本構想

将来的に複合経営や6次産業化経営等の収益性の高い農業に挑戦する仙台市内を中心とする農業者や就農予定者等を対象として、「6次産業化や施設園芸をはじめとする複合経営に向けた研修機能」と、「施設園芸や加工施設の設置や運営による展示機能」を配置し、人材育成や情報発信による収益性の高い農業推進の支援を行う施設として整備する。

例えば、施設園芸については、栽培システムが異なる施設園芸用ハウスを設置し、研修者の関心に応じて栽培研修を行い、そこで栽培された農産物を外部事業者や「農と触れ合う交流拠点」内に設置される直売所へ販売するなど、研修者が、研修を通じて施設園芸に関するさまざまな生産技術を体感・習得し、生産から販売の一連の経営モデルを学ぶといった手法が考えられる。

## 2) 「農と触れ合う交流拠点」再整備の基本構想

市民が園芸や農業と触れ合う拠点として、これまでの機能をより強化する。

拠点の主な機能としては、憩いの場や市民農園、各種行事・まつりの開催など、これまでの農業園芸センターの基本的な機能を引き継ぐものとする。

施設に関しては、上記機能と適合せず、特殊な建物で他への転用ができない大温室は撤去し、展示室などの施設については農業や園芸の振興に資する展示を行うなど、これまでの機能を活用した利用を中心とする。また、地域の農産物を手に取ることが可能な直売所（物産館）、地元食材を用いたレストランなど、現在の消費者ニーズに合わせた施設を整備するとともに、栽培指導型市民農園、バラ園、芝生広場などは機能を強化する。

### 仙台市農業園芸センター再整備の基本的考え方

項目	内容
1 再整備の目的	「農と食のフロンティア」の推進に向けた支援拠点施設として、仙台市東部地域の農業が目指すべき方向や今後の環境変化を踏まえ、仙台市農業園芸センターの再整備を進める
2 再整備対象	農業園芸センター全体 約10.7ha
3 再整備の方向	①「収益性の高い農業推進支援拠点」と、②「農と触れ合う交流拠点」の2つの拠点で構成。
4 事業方式	民間事業者の公募によるプロポーザル方式

### 仙台市農業園芸センターの再整備の一例

**「収益性の高い農業推進支援拠点」**  
生産、加工、販売を行う6次産業化など新しい農業を支援する機能

**新しい施設園芸のあり方を示し、農業者の育成を図ります。**

**直売所やレストランを中心に多くの人が集まる賑わいのある空間がつけられます。**

**「農と触れ合う交流拠点」**  
農業や食への市民の関心を深める機能

- ◆市民農園
- ◆直売所(物産館等)
- ◆レストラン
- ◆バラ園・芝生広場
- ◆展示室
- ◆加工施設(簡易な工房)など

**食品加工に関する研修や展示を行い、6次産業化を支援します。**